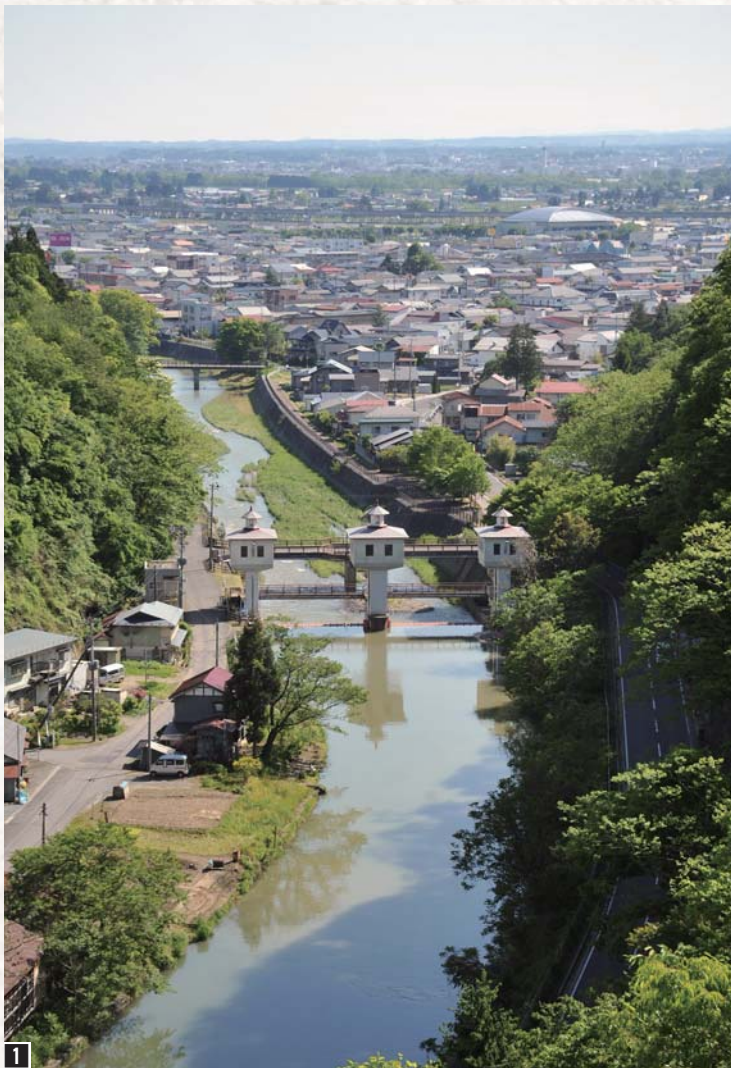
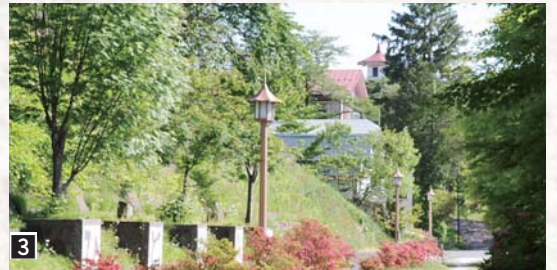




1



2



3

1 夢乃橋から。右岸の館山、左岸の向山の合間を縫うように流れ市街地に注ぐ 2 重染寺頭首工。北上川から取水した水を下流の農地に供給している 3 遊歩道から望む旧岩谷堂共立病院のとなり帽子



奥州遺産

——ときを越え
受け継がれるもの——

第93回

人首川

江刺米里へ愛宕

江刺米里（旧人首村）を源流に、江刺地域北東部から岩谷堂市街地を流れ伊手川と合流し北上川へ流れ出る、延長およそ30キロの人首川は、古くからこの地域を潤してきた恵みの川だ。

江刺米里に伝わる伝説では、征夷大將軍坂上田村麻呂が悪路王を討った後、その弟大武丸の子である人首丸が抵抗を続けたが、大森山で討たれたとされ、村名や川の名はこれにちなむという。その地は、中世には、江刺氏の家臣人首氏の本拠地であり、近世の人首要害には伊達一族の沼辺氏が居城した。

岩谷堂市街地の川沿いには遊歩道が作られ、明治時代の擬洋風建築物である旧岩谷堂共立病院や、景観調和がとられた重染寺頭首工、街路灯のとなり帽子などが並び、歴史が感じられる憩いの場となっている。

いくつもの時代を流れてきた人首川は、今日も大地と人々の心を潤している。

広 告

●広告の問い合わせは、(株)東広社（☎ 0197 64 1523）